
第2回米原市総合計画審議会

日 時：平成23年9月6日（火）

午後7時～午後9時

場 所：米原市役所米原庁舎2A会議室

■出席者（敬称略）

1号委員：今川晃

2号委員：相宗久夫・細田敏雄・車戸彬邦

3号委員：大木康司・世一辰男・大澤勉・森定造・宮部道雄・濱川祐次・北村きよみ
居林重磨・川崎善徳・鹿取和幸・大林文彦・池田博・丸本愛子・舟橋麻里

■欠席者（敬称略）

1号委員：井上芳恵

3号委員：北村きの

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - I. 市民意識調査の結果報告
 - II. 前期基本計画の検証（部会に分かれて実施）
 - III. 部会の報告
4. その他
5. 閉会

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

I. 市民意識調査の結果報告

事務局より説明

委 員：年代ごとの調査人数と、地区別の傾向が分かれば教えていただきたい。

事務局：年代等、詳しいデータはまだ出ていないため、今日のところは数字をお伝えできない

が、例えば、36 ページの問 21 の食育については年齢別でクロス集計を行っている。今後、こういう調査を深めていき、報告させていただこうと考えている。

会長：分かり次第、報告をお願いしたい。ほかに、ご質問はあるか。

委員：それぞれのまちが行っている総合計画は違うと思うが、米原市以外のまちの場合の満足度や、全体の傾向みたいなものを調べていれば、教えていただきたい。

事務局：傾向はまちによって違うが、医療や交通の確保が課題としてよく出てきている。

委員：他都市と比べて、満足、ほぼ満足、不満足の比率の傾向は分かるか。

事務局：割合までは分かりかねるが、満足度より重要度が高いというのは、どこも同じ傾向になっている。

委員：18年度と23年度では、回収数（N）の差が約600票あるが、統計的に見て耐えられるのか。

事務局：前は18歳以上の市民4,200人を対象に送付しており、回収率は約45%であった。今回の配布数は3,000人ということで違うが、有効回答数がこれだけあれば、回答結果に狂いはないだろうということではじき出して、3,000人に送付しているので、比較対象としては問題ないと判断している。

会長：クロス集計と、他都市と比較して際立って特徴が出ているかについて、分かり次第ご報告をお願いします。

Ⅱ．前期基本計画の検証

●第1部会

事務局より、第1章について説明

委員：課題というのは、市民の重要度が低いということも踏まえた上で後期基本計画に向けて挙げておられるのか。もう1つ、このアンケートの重要度が低いという説明をどういうふうにしたらいいのかが、分析的に分からない。重要度が低いと言っているのに、なぜ課題に挙げられているのか、根本的なところだが、その辺が分からない。

部会長：基本的に満足度が上がって重要度が低くなるなら、施策が反映されたということで評

働けるが、満足度がそのまま横並びで重要度が下がっているというのは、市民意識としてどう分析されているのかということである。

委員：それが大事である。そうでないと、極論を言えばいくらでも格好いいことは書ける。この資料をもらったとき、その辺、説明責任を言われたとき困ったなと思った。

委員：先ほどの、満足度が上がったから重要度が下がったという説明は間違っていると思う。

部会長：今、そういう部分を探してもらっているが、第1章に関しては、重要度は下がって満足度がそのまま平行ということは、市民のあきらめが先に立っている。

委員：この18年の調査は、総合計画を立てる前のアンケートなので、今のものとは全然尺度が違う。一方的に、満足度が上がったから重要度が下がったということが言い切れるかどうかというと、少し疑問がある。

部会長：要するに散布図の中で、重要度が下がったという分析は、市民のニーズとしてなぜかという分析をしないといけない。

事務局：2つ考え方があると思う。今、言われたように、市民に少しあきらめがあるというのは1つあると思う。もう1つは、この5年間で、時代背景や市民の重要度が少し変わってきているということも考えられると思う。ただ、前回に比べて重要度が下がったという観点よりも、今現在でも満足度に対して重要度は高いという現状もあり、そういう意味では、まだニーズがあるという考え方のほうがいいのではないかなと思う。

委員：先ほど地域性と言ったけれども、何をもちて幸せとを感じるのか。あんな辺りな所でよく生活できるなという目で見ると、収入が少なくてもみんなが仲良く生活をしていくことが一番幸せなんだと、そう信じて生きている。その幸せ度というのも、地域によってもものすごく変わってくるのではないかなと思う。平地に住んでいる人と、山の中に住んでいる人の考え方にもものすごく差があると思う。

委員：やはりきちんと現状を踏まえた上で、きちんとしたほうが親切だろうなと思う

部会長：では、地域ごとのアンケートの結果を、お話があったようにまとめていただき、そういう部分で意見があったときに対して、返事ができるようにしておいていただきたい。今日は、一応このアンケートを信じていただいて、説明がありました第1章の中で、委員さんとして客観的に見て、そうではないとか、もっとこう具体的にとか、ここはもう少し前向きに取り組んではどうかといった皆さんからのご意見は、次の議論の資料に反映していただけたらと思う。

委員：学校の統廃合計画についてだが、基本的に5年前からこの統廃合の計画はあったわけで、方向性が出たら、もっと早い段階から市民に公表すべきだと思う。また、柏原区の地域住民への説明会では30何人、父兄への説明会ではもっと少ないということで、東小でもその問題は出ていたけれども、何回やったというのではなく、中身だと思う。今後、統廃合が続いていくけれども、かなり早い段階から親切な情報を住民に流し、いろいろな意見をつかんでおくということが必要だと思う。

委員：今まで統廃合された状況を見ると、口火を切ったときにはとても地元の人には反対されるが、長い目で見てくると統合したほうがよかったみたいなことは、現実、出てきている。だから、統廃合は納得できる筋道で、結果も効率がよくなることが目に見えて分かるのだけれども、それを地元の人にきちんと分かってもらえるような出し方というのが、なかなか難しいのではないかなと思う。例えば、たくさんの分校を統合してきた伊吹のように、少ない人数の中で子どもが育つより、たくさん的人数の中で育ったほうがいいということが分かってくるまで、時間がかかることもあると思うが、その結果、満足度が高くなっているということも言ってもいいと思う。今後に向けての課題で一番大事な問題は何かというと、「教職員の更なる資質の向上が求められる」。これが断然トップである。私の目の前で、あの先生がおる限り学校に行かないという生徒を何人か知っているが、命がけで教育に取り組むような姿勢の先生ばかりそろっていて質を上げたら、問題は何も起きないし、長期欠席もなくなると思う。

委員：今の発言のように私たちも思うが、それは米原市だけの問題ではない。

委員：地域によって異なるかもしれないが、先生が子どもと友達みたいになってしまっていて、公園の除草作業の話し合いをしたとき、生徒が何をしても先生は何も怒らない。先生に言うと、ましなほうですという先生もいた。米原公民館で平和祈念式典があったときも、後ろのほうで生徒が話していたが、校長先生も注意しない。それが現状である。本当に質が悪い。

委員：教育委員会の先生の評価の仕方が変わっているみたいで、問題が起こると、自分の査定にやはり響くようである。そうすると、父兄の方からも、あの先生はと、今はやりのモンスターペアレントがあるみたいで、びくびくしている先生もいると聞いている。

委員：信念を持ってしかりつけるということが、そもそも抜けているような気がする。

部会長：そういうのは具体的に施策に反映してもらうようにして、大事なのは教職員の資質の向上が最も重要であるという話と、第1節の統廃合に向けて、もっと市民を巻き込んだ議論をしてから、統廃合の検討をされるべきだと思う。これは教育振興基本計画を策定するときに、一定の地域で市民との意見交換はあったのだろうと思うが、それが少し

希薄だったかなということだと思う。今後の統廃合計画については、より市民との統一感を密にしてもらいたいということである。

委員：最後の「学校、保護者、地域住民、各種団体が連携しながら、…青少年を地域で見守り育てる環境づくり」と、とてもいいことが書いてあるが、逆を言えば、完全に学校側が開けていない。学校の中だけで通用することばかりで、保護者にも真意が伝わってなかったり、先生たちのことも、何しているのかということも、地域の住民が学校を全然知らない。先生は手薄で手が回らないのだから、地域の人材にもっと学校に来てもらっていろいろお願いすれば、高齢者の人は気を良くして、いっぱいいろいろなことをやってくれると思う。そして、学校が襲われて子どもが何人も殺されたことがあったが、地域の住民が毎日行くような形になったら、学校は絶対安全になる。塀をつくるだけが安全ではないと思う。

委員：同じ考えだが、要は、この4つの各種団体が連携しあうことである。それから、コーディネートは誰がするのか、教育委員会なのか、その辺りが明確になっていない。もう1つは、今言われたように、学校はもっと開かれないといけない。学校側は、こういうことをやるので来てくださいといったことを、地域に向かってもっと情報を発信しないといけないと思う。

部会長：逆に言うと、今は学校の防犯体制を確保したいという思いから、地域の住民をあまり寄せ付けない傾向になりつつあるので、それは逆効果ではないのだろうけれども、塀を設置したり、一般の市民は学校施設内に入らないでくださいというようなアピールをどんどんしていくので、よけいに地域が集まりにくくなってきている傾向もある。

委員：あいさつも、知らない人にしたらいけないということもあって難しい。

部会長：昔は、運動会や学芸会があり、子どもたちの活動を地域の皆さん、家族なりが学校の中でたくさん参加して地域連携が取れたけれども、最近はそれすらなくなってきている。もう少し、地域に開かれた学校の仕組みづくりを検討すべきだろうと思う。

委員：学校評議委員会があっても代表になっていない。学校のために尽くしましょうという会をつくったほうがいい。地域の住民がみんなで学校をもり立てましょう、学校を守りましょうという会をつくったほうがいいと思う。

委員：課題については、具体的に何か考えられているのか。これは目標であって、これからののか。

部会長：それは、実施計画等でこういうのをピックアップしてくことになる。

委員：第1節の「地域が誇る米原っ子が育つまちをつくる」だが、今、言われたように、学校そのものを米原市がどのように捉えるかという、例えば地域のコミュニティスクール的なものを米原市が具体的に広げていくとか、あるいは学校サポーター制度を押し進めていくとか、そういうことによって米原っ子がうまく育つまちをつくるというふうに、一步前進してほしいと思う。

委員：体質を変えてほしい。体質を変えないと絶対学校はよくなるし、生徒も注意散漫で学力が低い。全国平均から自分たちの学校がどうなのかというの、知らないといけないのではないかと思ったりする。危機意識が低すぎる。

部会長：学校教育に関しては、あまり良くなく、満足度が低いということである。

委員：今年度、山東西小と山東東小が統合されて山東小学校ができたが、個人的に小学校のある先生と統合後の様子をたずねると、欠席率が高まっているということであった。まだ半年くらいしかたっていないが、今、柏原学区でも中学校の統合計画が出ているので、小学校の統合の評価、マイナス点、そういったところをきちっと市民に提示していかないと、今後の中学校における統合というのは、なかなか難しいのではないかと思う。

委員：それから、統合した結果の子どもたちの心のケアもしっかり検証していただきたい。

部会長：時間が30分と限られているので、第1章の中についてのご意見をお願いしたい。

委員：第2節の後期計画に向けての課題で、2番目に「展覧会などのイベントを広く市内外に発信するとともに」とある。これは頑張ってもらいたいと思っているが、どんな小さなまちでも美術館は必ずあるのに、米原市には美術館がない。ほとんど全部の美術館を回って来たが、その土地の素晴らしい、教科書にも出ているような作品が誰でも見られるようになっていて、小学校や中学校の先生が生徒を連れて行き、いろいろな説明をしているといった姿を至る所で見えた。音楽はルッチプラザがあって、そこで発表ができるというのはものすごく大きなことでありがたいと思う。米原市にもいい作品があるので、ずっと展示できれば、もっと子どもたちも変わってくるのではないか。また、先生たちは忙しいために教材研究をやらずに教えている。そうではなく、自分で一度やってみて、子どもたちに教えるというのが基本だけど、その基本が守られていない。そこで、あそこ行ったらいい教材をいろいろ教えてくれるとか、毎日一生懸命になって研究している人といった、教育センター的な、教材研究が自由にできるような、指導力を高めるための施設がほしいと思う。美術品を展示できたり、先生たちが勉強する施設として、廃校になった山東東小学校をそういう形で利用できたらいいかと、前から思っている。

委員：米原市は素晴らしい文化財があるのに少しおざなりになっている部分があるので、子どもたちから文化財に親しませたいと思う。

委員：文化財が書いているマップはあるが、そのお寺ができた由来とか、今はどうかといった説明がきちっと書いてある冊子があればいいと思う。子どもたちにきちっとした知識を教えるおかないといけないし、せっかくの宝を大切にするという意味でも、本当に誇りに思うような勉強をしないとけない。

部会長：施設整備と、歴史文化資料を整理するという事でまとめたいと思う。

委員：今、話を聞いていて思ったが、美術館がないということで、第1項目でやった統廃合で廃校になった施設をどう活用するかという辺りと絡めていけば、できるのではないかなと思う。パリのルーブル美術館は、土日は無料で市民にみんな開放している。

委員：文化力の底上げをしていかないといけない。作詞作曲の授業があるが、先生方はできないということで、見本という形で、作詞作曲教室を各学校回って6年生に指導して、それを応募させたりとかそういう活動もやっているが、そういうことで何とかしてレベルアップをしてほしい。

委員：現役を離れられた地域の方が、出てもらえるような場をつくったらいいと思う。

部会長：まなびサポーターみたいな人は、現役のOBなどをフルに活用したらいいと思う。

委員：60歳を超えた人で能力をもった人が多いが、ほとんど活用されていない。今までインプットしたものをいかにアウトプットしてもらうか、そういう面でも人材バンクではないが、この人的資源をどう使うかが非常に大事だと思う。

委員：こういうのは、シルバー人材センターとの連携とかできないのか。

委員：考え方が違っており、お金うんぬんではなく、子どもと一緒にいることがうれしい、子どものために余生をささげる、といったことでないとなかなかできない。

部会長：ある意味では、社会体育の部分ではそれが成立しており、その中で、ボランティアで能力がある人が子どもたちの育成に取り組んでいるという例もある。

委員：公民館の相互間で、パソコンでのネットワークはきちんとできているのか。

事務局：できていない。通常のネットしかない。

委員：4つの公民館ごとで文化祭をやっているが、市になったのだから、全部一緒にやるようなことがあってもいいと思う。

部会長：次に第2章の説明をお願いしたい。

事務局：先ほどの公民館相互のネットワーク化というのは、インフラ的なものではなく、ソフト的な連携ということでご理解いただきたい。また、第1章の冒頭にいただいた市側が成果の検証なり課題を出している部分に、市民意識調査を踏まえてのものなのかというご意見については、これとは全くリンクしていないのでご了承いただきたい。

事務局より、第2章について説明

委員：近江地区にセンター的なものとして、ソフト面で健康センター拠点づくりを進めるのはとても大事だと思うが、もう1つ踏み込んで総合計画に、ハード面として念願だった米原市独自の病院建設を入れてほしい。金銭面、運営面で難しいかもしれないが、滋賀県一小さな市だからこそ、美術館、病院というのは大事で、何か新しい方向性を出すことによって、人が米原市に安心して住んでもらえる。あるいは少子高齢化も若干改善し、職場も増えるだろう。何とか、将来的に健康、安全の拠点になる病院建設を計画的にしてもらえるとありがたいと思う。

委員：ノルウェー、スウェーデン、デンマークでは、病院に高齢者のための寝たきりベッドは一つもない。なぜかというと、車いすになって寝るとそのままずっと寝たきりになるので駄目だということで、バスで公園に連れていき散歩させたりして、寝たきりには絶対させないと、それが福祉だというのである。日本と全然違った発想である。高齢者に元気でいてもらうためにどうするか、お荷物と捉えるか、戦力と捉えるかで市もがらっと変わると思う。戦力で捉えれば、開かれた学校というのだから、高齢者にどんどん学校に来てもらって、先生の手助けをしたり、もっといろいろできる。だけど、お荷物と捉えているから、これが全部閉ざされているのだと思う。

委員：第1節で、市のヘルスアップステーションという、とてもいい施設や市民団体の組織がたくさんあるが、PRが全くできていない。どれだけの人が認知しているかが大事で、一度PRしたからいいというものではない。市民への周知徹底をぜひお願いしたい。

「健康づくり」では、米原市も高齢者が増え、病気の方が増えてきて医療費を圧迫している状況だが、いかに健康でいてもらうか。そのためには、一つひとつの点の組織や人を線で結ぶことが大事で、そのコーディネーターができる能力のある人をつくっていく必要があると思う。

第3節で、民生委員になり手がないうい意見があるが、今、民生委員に、いろいろ具体的にやってもらうところがすべてきており、相談しようにも連携がないので相談

もできず、みんな一人で悩んでいる。こういうものもシステム化する必要がある。現状、独居老人、孤独死まで出てきている中、米原市は「絆」ということをいっているが、現実には自治会の中で向こう三軒両隣の絆などほとんどない。小学校単位くらいで、そういう福祉の固まりをつくりながら動いていくようなものをつくっていかないと、これからは対応できないのではないかと思う。

ここに市の施策が挙がっているが、社会福祉協議会との役割分担も明確に見えない。1人の人を継続して連続して支えるシステムになっていない。

これからの福祉は、いろいろな面で、点を線をつないでいくシステムの構築や人材の養成をしないとできないと考えている。また、現在、自治会の区長は市民自治センターの管轄で、民生委員は福祉の管轄だが連携が全然取れていない。横の連携システムがないと米原市は立ち遅れていくという危惧を持っているので、その辺りもぜひお願いしたい。

委員：第4節の「結婚相談事業」は、事業仕分けでは見直すという形で否定的だが、是非とも力を入れていただきたいと思う。

委員：昔は青年団があり、活動をする中で結婚に結び付いていたが、今はそういう出会いの場がない。目的別、拠点別というような形で、青年団に代わる活動拠点がたくさんできて、いろいろな活動しながらの出会いの場づくりが必要で、そういう場として地域の「ジョイいぶき」等の利活用の仕方も考えなければいけないと思う。

それから、「放課後キッズ」というのがあるが、昔、おじいちゃん、おばあちゃんが子どもたちを見ていたように、地域全体の中で、地域の集会所等を活用して、お年寄りたちが集まってくるような場をつくり、その中で子どもたちの面倒みるという、昔に返って、もっと昔のよさを考え直すといいのではないかと思う。

もう1つ、地域の良さ、地域の連帯感がなくなっているというが、一人暮らしの方への声掛けや学校の雪かき等々、地域でやっていて、自分の所よりもまず地域という気質はまだまだ残っていて、それは大事にしていかないといけないと思う。地域によってその辺の受け止め方は違うが、お年寄り同士の連帯感はとてもあるし、頼むと喜んでしてくれるので、そういう地域性をもっと活かしていくといいと思う。

部会長：都市経営についても議論する予定であったが、時間がないので、目を通していただき、次回ご意見をいただきたい。これで第1部会は終了する。

●第2部会

事務局より、第3章について説明

委員：リサイクルについて、他都市では、無駄になるモノは出さないと徹底的にやっている所もある。現在市では、資源ゴミの日を設定しているが、もっと大々的に、常時、各個人がゴミを持って行って、分別できるような場所ができないかと思う。

委員：旧伊吹町にコンポストセンターがあるが、将来、全市的に設置を進めていくのか。

事務局：現在、新しい施設をつくる予定はない。コンポストセンターは、農業集落排水をやっている地域の付属施設で、今、山東の汚泥も入れているが、この地域しか入れられないという決まりがもともとあり、拡大は難しい状況である。

委員：風力や太陽光を取り入れることも必要で、伊吹山の植物が生えていない所に風力発電をして、観光客にPRするなど考えてはどうかと思う。

委員：イヌワシがいるので、おそらく難しいのではないかと思う。

事務局：一時期、奥伊吹で調査をしたことはあるが、やはり環境の問題が出た。

委員：原発の問題がある中、今後、自然エネルギーに転換していく方向性は、米原市のまちづくりを考える上では重要である。

委員：「田舎都市」という言葉は相対する言葉で辞書にはないが、パンフレットに記載されているように、若者に定住してもらうということが基本にあると思う。若者はこの言葉によって相当影響を受けるので、ここを、例えば、田舎を残した「次世代都市」「夢のあるまち」というような表現にして、若い人を引きつけるような文章にしてもらいたいと思う。ここの文言が計画の中で一番気になった部分である。

部会長：おそらく「田舎都市」の名称は直せないなので、方法として、課題の方向付けのところで表現してはどうかと思う。

委員：田舎と都市という表現について、環境面では伊吹山の植物の保全と観光、経済的發展という面では工場や企業誘致が重要で、両立が必要で力を入れていけないといけない部分だと思う。アンケートでも出ているように、どういう方向性でもっていかかが、とてもジレンマがあると思う。

委員：「田舎都市」という言葉は、環境基本計画策定委員会の際に出た言葉で、共通の余地の

ある都市を目指すという形で、一番こだわりのあった表現であった。

事務局：「田舎都市」という表現については、都市と田舎の融合ということで、前市長がこだわりをもっていた表現である。現市長は、「田舎」というイメージが、定住を考える若者に対してどうかということで、あまり使われない言葉にはなっている。しかし、総計の構想の柱なので、変更する予定はない。

委員：ほたるは米原市のシンボルだが、それだけにとどまらず、豊富な自然というものを打ち出していったらどうかと思う。

部会長：自然と環境に関して、総合的にまちづくりへと反映させていく必要があるかと思う。

事務局より、第4章について説明

委員：2節で「子どもがみちくさできるまちをつくる」という表現は、今の時代に合わないのではないかと。毎月1日の「あいさつ運動」はこの中に入らないのか。

事務局：「あいさつ運動」は大事だと思うので、ぜひ入れたいと思う。「みちくさ」については見直しをさせていただきたい。

委員：防災施策の観点から、台風で被害が出ている天の川の改修工事は、どこに入るのか。防災の面からも起こってからでは遅いので、危険箇所のチェックなどもしっかり行ってほしい。

委員：防災施策に関して、各家庭にケーブルTVを整備したのだから、それを活用して、地域に特化した警戒警報等、市の中のタイムリーな情報発信をしてほしい。特に高齢化が進めば進むほど必要で、今後のそこの充実が課題であり、市民の安全確保が第一である。

事務局：技術的にどうなのか、今は分からないが確認させていただき、検討させていただく。

委員：自然動物の保護とか共生とか書いてあるが、地域では鳥獣被害が多発しており、畑など財産が守れない状況である。きれいな言葉が並べてあって、真をついた記載が少ない。地に足ついた取り組みをしてほしい、本当に切実な問題である。

部会長：切実な問題ということをおわせるような表現を、検討していただきたい。

事務局：鳥獣対策も1節の中できちんと盛り込みたいと思う。

委員：3節の坂田駅の利用増進について、伊吹山登山とJRとの連携により観光客を増やすことができると思うので、そういった働きかけが必要だと思う。

委員：今の財政だけでは厳しく、パークアンドライドなどの仕組みづくりの取り組みが必要である。例えば、点々としている広い土地を集約するなど、行政が仕組みをつくっていくべきである。垂井駅は大きな駐車場があり、そこに車を止めて大垣まで電車で出かけている人が多いようである。そういうように米原市もそういう取り組みを考えたほうが良いと思う。

これらは、JRなどの交通事業者等も巻き込んで事業を進めたほうが良いので、こういう会議に参加していただいたほうが良いと思う。

委員：長浜市では、ウォークラリーなどJRと連携した取り組みを進めていると思うが、さまざまな事業をリンクさせて各主体と連携することで、より効果的な取り組みができると思う。観光施策の観点から、醒ヶ井駅からいろいろなところに周遊できる取り組みが必要である。

部会長：今の内容は、5章にも関連するので、次の説明をお願いしたい。

事務局より、第5章について説明

委員：年間観光入り込み客数は1日5,000人くらいだが、どこをどう集計した数字なのか。

事務局：集客するような施設に何人来られているかを調べて、それを足した数である。

委員：米原をPRし、多くの人に訪れてもらうためには、駅周辺に駐車場を整備するべきで、西口もロータリーになって、余計、車を止めるところなくなった。切符を買うにも違う所に止めていけないといけない。車社会なので、どこも駐車場は必須で、車で来た観光客が米原駅に車を止めて立ち寄れる場所にして、観光案内所などにも行けるようにしたほうがよい。現在、東口にも車が止められない状況である。

委員：ロータリーは、今からでも良いので直してほしい。住民の意見を聞いていないと思う。

事務局：西口に止まっていた観光バスは、全部東口に回すようにして5台分ほど確保はしたが、一般の駐車場はまだである。

委員：実際、西口でアクセスする人のほうが多いのではないか。

委員：現状、西口へ行ってしまうので、東口のコミュニティホールの利用が少ないのではないか。東口はほとんど利用されていないように思う。

委員：利用客は西口が多く、いくら東口へと言っても 100m でも近いほうがいいのかは当然である。本来ならば、西口にコミュニティホールを置いてもらったほうがいい。

委員：車 5 台程度でも駐車スペースを整備するべきである。

事務局：現在、こういう状況だが、東口の区画整理した中に、企業なり商業施設を誘致しようという考えである。

委員：西口にしても東口にしても、企業誘致に関する土地については、企業に売るという発想ではなく、「企業に貸す」という大幅な方向転換を図ったほうがいい。

委員：前回、エンジニアの人材が少ないという話をしたが、定年を迎え仕事をリタイアした人だけでなく、会社人間の壮年層に対する生涯学習施策も進めるべきである。地域ブランドづくりということで、農産物のブランド化などを進めていると思うが、JA がどれだけ機能しているのか。銀行のような仕事ばかりしている印象を受ける。土地改良、品種改良などやって、地域にあった農産物の研究も必要である。今後、農業をどのくらい推進していくべきかも見定める必要がある。米原は他の地域に比べると、商業・2 次産業が多く、とても農業人口が少ない。この辺りを我々がいい提案をして、効率的なまちにしていく大きなポイントになると思う。

委員：観光施策に関して、観光入り込み客数を 210 万人より上を目指した、施策展開してはどうか。

事務局：観光課の話では集計方法が変わり、210 万人も厳しい状況ということである。

委員：駅周辺の企業誘致施策に関して、青写真や途中経過が全然分からないので教えてほしい。そういった情報はもっと市民に広く公表するべきだし、意見を求めるべきである。企業立地や商業施設立地に関しても、話が来たときすぐに対応できるよう、前段階できちんと準備して、もっと積極的に進めるべきである。

委員：米原市の特徴として、交通の要衝地であることは大きなメリットであるが、現在、都市計画における線引きの関係上、開発の余地がない。開発の観点から、国道沿線で開発可能な所など、線引きの見直し等について検討するべきである。

委員：県境に住んでいると、寝物語の里や関ヶ原の合戦、また、60 cm の川で岐阜県と滋賀県に分かれているので、それをよく見に来られて聞かれるけれど、地元に住んでも難しすぎてよく分からない。そういうときガイドの人に説明してもらったほうがいいのかと思うので、ボランティアのガイドの人が、どこの地域にどのくらいいるのか、もっ

と市民に発信していくべきである。

委員：都市計画マスタープランと総合計画は、どういう位置づけになっているのか。

事務局：総合計画が上位計画である。

部会長：総合計画が見直されると、都市計画マスタープランが見直されるということはあるのか。

事務局：見直し時期になればあり得る。今度、都市計画区域の見直しが行われる。

委員：広域連携、行政間連携等により、他都市や隣接都市と関連性を持たせた施策を進めるべきである。観光にしても何をするでも、もどかしさを感じる。

委員：大河ドラマによる観光客は長浜に持っていかれてしまっている。米原市の観光ボランティアも長浜の説明ばかりで、旧山東町の清滝の説明はされていないようである。

委員：米原らしさをもっとPRして米原の観光資源を全面に出すべきである。

委員：地域資源や魅力の発信に関しては、都市経営の施策としても、情報発信の充実を進めなければならない。

部会長：今まで出た意見を、次回の計画に反映させていただきたい。

事務局：都市経営に関しての情報の公開や発信の部分等、意見をまとめて反映したいと思う。

委員：次回も今日と同じようなことをするのか。

事務局：今日が前期の検証の最後で、3回、4回の審議会は、今日の意見を基に後期基本計画をつくるので、それを見ていただく形となる。

Ⅲ. 部会の報告

※ 時間が押しているため、部会報告はテーマでまとめて報告する形とする

4. その他

事務局：今日、出られなかった部会の意見や、各部会で言い足りないなどの意見がある場合は、シートの意見欄または事務局までご連絡いただければ、反映させていただくのでお願いしたい。

副会長：たったこれだけの時間の中で意見交換はできないので、シートに書くというのではなく、きちんとしたシステムを作って、FAXやメール等で送ってもらうなどして、意見が述べられるようにしたほうがいいと思う。

事務局：様式をつくって、メールもしくは郵便で皆さんに送る形を取りたいと思う。
今後については、今日までが前期計画の検証で、3、4回は同じ部会形式で後期基本計画の検討を11月にお願いしたいと思っている。日程については調整を行い、後日ご連絡させていただくので、よろしくお願ひしたい。

副会長：書類の事前配布もさることながら、意見をいつでも言える体制づくりを事務局でつくっていただかないと、この短い時間内ではおそらく消化できないと思う。特に、今回は後期計画の内容になってしまうと、委員さん方の意見が反映されないことになってしまうので、次回まで時間があるので、その点十二分にお願ひしたい。

会長：意見はいつごろまでに提出すれば、次回に反映されるか、そういったことも連絡をいただきたい。

事務局：まず、地域や年齢等のクロス集については、今週中に調整を行う予定である。また、意見を取りまとめるシステム化についても改めて事務局のほうで整理を行い、貴重なご意見をいただき、後期計画に反映させたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

5. 閉会

(終了)